

「よかところネット」レター 2016.3月号

<発行>熊本地域医療センターよかところネット広報担当：外来看護師敏平

今回は「闘病記」をテーマに当センター通院中の園田照子さん(現在、カウンセリングセンターぐちり庵代表)に発病当初から現在に至るまでの経緯と心境、今後への思いを楽しく話していただきました。

自衛隊の看護師として働いていた50歳の頃、節目検診(自衛隊病院では40歳と50歳の時に節目検診がある)で肺に陰があるといわれたが健康には自信があったため気にしなかった。1ヶ月後に再検をする様に言われていたが軽く受け止めていた。5月に風邪を引き中々治らず、節目検診のことを思い出し、主治医へ伝えたらすぐCTを撮られた。「小さくなっているでしょう」と聞いたら「倍の大きさになっている」と言われ、地域医療センターの干場先生を紹介された。干場先生から明るく「肺がんです」と言われ3cm位だから内視鏡で採れると説明を受けたが前日に開胸になる事を告げられた。手術後は早く退院したいとの思いが強く屋上にジャージを着てリハビリに励んだ。1ヶ月後抗がん剤治療に入った。仕事時は患者さん達に「きついですね」等声を掛けながら、きつとつわりの数十倍、二日酔いの数十倍のきつさだろうなと思っていたが、とんでもなかった。抗がん剤投与4回予定で開始し、3回目あたりからかなりきつくなって4回目の治療日の朝、いつも通り子供たちを送り出しその後私も受診しようと車に乗ったが何かもやもやして行きたくないと思った。菊池からの道のりで病院が1km先に見えたぐらいからさらに行きたくないと思った。外来に受診しもう駄目だと思いきやトイレに駆け込んだ。主治医へ「延期してもらえないか」と、今日の心境を伝えた。主治医より「それは予期嘔吐ですね」と言われた。今日の治療は自己責任として止めたいと伝え治療は終了した。その後11月まで月1回受診していた

ある日、左手が重く力が入らない感じがした為、夫に両手を握ってもらおうと夫も力が入っていない事を感じたので、もしかして脳出血？それとも脳梗塞？等と思いながら自衛隊病院を受診した。頭部MRIを撮ってもらったら大きい塊が2カ所あると言われ画像を持参し干場先生を受診した。また明るく「転移ですね」と言われた。「もう、終わった、私の人生…」その日の夜、荷物を全部整理した。看護系の書物、健康マラソンで着ていたジャージ等々。全部で10袋あった。脳転移に対しては放射線治療を行うことになり4回目で消えた。3月に再診の為放射線科を受診「大丈夫だろう」と思っていたら脳に1mmの転移が見つかったがまた治療を行って消えた。その後は現在もタルセバという飲み薬で治療を行っている。

病気になるって何を一番に思ったかと言うと子供達の事だった。当時中学生と、高校生の子供達。この子供達はどうなるのだろうか…と。1ヶ月入院し退院した日、やつれ果てた中学生の娘が「お帰り」と出迎えてくれ、台所で何かしていた。「お母さん一緒に食べよう」とリンゴをむいてくれた。その姿に“もうこの子供達に何でもしてあげる必要はないな”と思った。その時から“しっかり治療をしよう”と思い、病気に向き合う事ができた。もう一つ向き合える事が出来たのは入院中の同室者の方達との交流。当初皆癌になり「私たちはがんよ、死ぬのよ」と言われていた。私も癌になって死がいつ来るんだろうと思っていたが、そう思う時間が自分自身を弱らせてしまう、このままではいけないと思い同室者の人達と、がんについて話した。癌も風邪も免疫力が落ちている。どうしたらいいか…との話になり、最低1日1回は笑おう、美味しくなくても薬だと思い食事をしようと言った瞬間から部屋が明るくなり毎日が修学旅行みたいだった。

発病してもうすぐ丸6年。病気になるって大変だったことも沢山あるけど、良かった事も沢山あった。抜けたしまった髪がウェーブがかかり生えてきた。子供を認めることが出来た。そして前向きに生きる事が出来るようになった。昨年、誕生日を機に定年退職した。生きている事を楽しまないと！と思い、ずっとカウンセリングの仕事がしたかったのでお金はないが開業した。病気だからいつどうなるか分からないが、ゴールを決めず380歳まで生きていきたいと思います。

★参加者より★

「抗がん剤治療がきつくてやめて落ち込んでいたが、今日話しを聞いて皆同じ思いをして治療をしてきたんだと思った。気持ちを切りかえて頑張りたい」

「“生きていることを楽しまない”という言葉がとても印象に残った」 ★

「笑顔で過ごすことの大切さを改めて感じました」

園田照子さん



*4月のがんサロンはお休みです。次回は5月6日金曜日、テーマ「リレー、フォー、ライフ参加準備」です。